

房総の 文化財

VOL.20

平成11年11月30日
財団法人 千葉県文化財センター
〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2
TEL 043-422-8811(代)
FAX 043-422-8850

ISSN 0919-0848
Bōsō no bunkazai



発掘調査速報

縄文時代中期のムラの中心人物

—千葉県有吉南貝塚—



装身具を身に付けた男性人骨

有吉南貝塚は、千葉市緑区役所近くの台地上にあります。ここは、縄文時代中期後半（約4500年前）の大きなムラの跡です。直径約100mの馬蹄形の貝塚が見つかり、その周辺に、^{たてあなじゅうじょ}堅穴住居や貯蔵用の穴がたくさんあったことがわかりました。

平成10年度にその一部を調査したところ、埋葬された人骨が、ほぼ完全な状態で発見されました。頭は北西を向き、土器がかぶせられていらうえに、手足は写真のように折り曲げられていました。これら

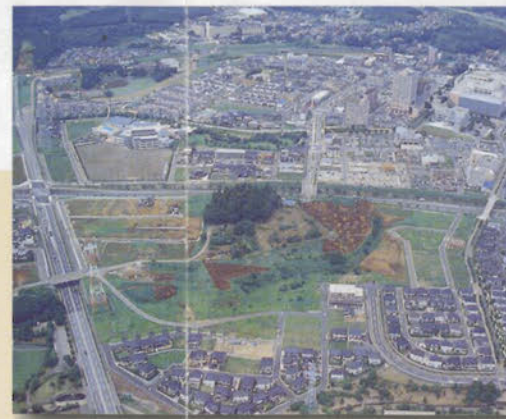
は、「甕被葬」及び「屈葬」と呼ばれ、縄文時代に見られる埋葬の仕方です。

この人骨は男性で、縄文時代の成人男性の平均身長（約157cm）と比べて、かなり背が高かったようです。

男性の腰の辺りからは、イルカの下顎の骨で作った装身具（表紙写真）が出土しました。これには、非常に細かい文様が施されており、赤く塗った痕も一部残っていました。

左手の近くでは、イモガイ（巻貝の一種）の貝殻を輪切りにし、小さな穴をあけて作った装身具も見つかりました。

ここで紹介したような装身具が見つかることは大変珍しく、当時でも貴重な宝物だったことでしょう。その宝物を身に付けていたこの男性は、狩りのリーダーや村長のような重要な立場の人だったのかもしれませんが、ムラ人たちは、中心人物を亡くした悲しみに耐えながら、丁寧に葬ったのでしょう。



空から見た有吉南貝塚（南から）



イモガイ製の装身具

遺物紹介コーナー

つむ わざ ぼうすいしゃ 糸紡ぎの技・紡錘車

—千葉県高沢遺跡—

昭和の初めころまで、機織りは農家などで折り見られる光景でした。また、糸を紡いだり、機織りをする人は人々にとって身近で、重要な仕事でした。

機を使って布を織るようになったのは弥生時代からと考えられています。機は木製のため、遺跡からはほとんど見つかりませんが、糸を紡ぐときに使われる紡錘車は堅穴住居跡などから見つかっています。

布を織るためには太さのそろった、しっかりした糸が必要です。室町時代（16世紀以降）に綿花栽培が盛んになるまでは、カラムシ（苧麻）という植物が絹と並んで糸の主な原料でした。カラムシの皮から繊維をとり、長くつないで糸にしますが、そのままでは弱いので、ねじって撚りをかけます。紡錘車はこの作業に使われま



した。
^{えんぱんがた}円盤形をした紡錘車の中心に軸を差し込み、^{じく}端に撚りのかかっていない繊維を掛けます。端を持ってぶら下げ、繊維がぴんと張った状態で紡錘車を回すと繊維も回り、撚りがかかります。出来上がった糸は次々と軸に巻き取っていきます。



鉄製の紡錘車を使い、麻に撚りをかける様子。（菱川師宣「和国百女」より転載）

この紡錘車はいろいろな材質で作られました。土製のもの、石・木・動物の骨製のもの、土器の破片を再利用したものなどがあります。軸は木と思われますが、ほとんど残っていません。時代によっては紡錘車と軸を鉄で作ったものもあります。また、大きさや重さも様々で、糸の太さに合わせて作られたと考えられます。

手のひらに載せると、すっぽりと収まる大きさのものがほとんどです。その心地よい重さは、遠い昔の手仕事のぬくもりを伝えてくれるようです。



◎遺跡今昔物語◎

—とね 利根の恵みを受けて— とうそう 東総用水発掘調査

東総用水は、東総台地の農業用水と水道水の確保のために作られました。この用水工事に伴って、^{とうのじょうまち}東庄町の^{たかべみや}高部宮ノ前遺跡、^{いまごおりか}今郡カチ内遺跡、^{おざ}小座ふち遺跡、^{おおま}青馬前畑遺跡の4遺跡の発掘調査が、昭和56年から57年にかけて行われました。

それまで東庄町では、発掘調査はほとんど行われたことがなかったため、最初のころは見学者が毎日のように訪れていました。発掘調査に初めて携わった地元の補助員さんも「いったい、これからどんな仕事をするのだろうか」と不安げな様子でした。

しかし、調査が進むにつれて、この辺りは、はるか旧石器時代の昔から人が住み始めていたことがわかってきました。また、今郡カチ内遺跡で見つかった縄文時代早期（約7000年前）の土器の中には、「日計式」という東北地方を中心に作られた土器が含まれており、利根川以南では初めての発見となりました。この土器は、当センター（四街道市）の展示室で見ることができます。

また、弥生時代や古墳時代をはじめとして、奈良・平安時代の大規模なムラの存在も明らかになっています。紹介した遺跡の近くには、国の史跡に指定されている小見川町の阿玉台貝塚や良文貝塚などがあります。

このように、東総用水の工事に伴う発掘調査によって、東庄町にも古くから人々の生活があったことがわかりました。



- 1. 高部宮ノ前遺跡**
縄文時代から中世までの幅広い時代にわたる遺跡。弥生時代、古墳時代のムラが発見される。
- 2. 今郡カチ内遺跡**
旧石器時代から人が住んでいたことを確認。縄文時代早期の「日計式土器」が見つかる。
- 3. 小座ふち遺跡**
縄文時代から奈良・平安時代にかけての遺跡。住居跡も発見。
- 4. 青馬前畑遺跡**
縄文時代から奈良・平安時代にかけての遺跡。

日本の時代区分表

BC（紀元前） AD（紀元後）





埋文レポートコーナー

市川市堀之内南遺跡見学会

「どうめき谷津に古代をさぐる」と題して、遺跡発掘調査の見学会が9月11日(土)に開催され、約200人の参加がありました。

堀之内南遺跡は、堀之内貝塚(国指定史跡)に隣接する低湿地遺跡で、昨年の10月から確認調査を続けています。

当日は、現在の地表面から数m下に、縄文時代晩期(約3000年前)の土器と木の実と一緒に出土している様子や、古墳時代の流木と木の根が一面に広がっている様子を説明しました。また、今回の調査で発見した木製品や土器などの遺物も、市立市川歴史博物館に展示しました。見学者は、間近に展示された原始・古代の遺物を熱心に見入っていました。



発掘調査の様子



遺跡の説明を受ける見学者

お知らせコーナー

●『今、古代史がおもしろい』

—出土文字からさぐる房総の古代—

★財団法人千葉県文化財センター設立25周年記念事業★のご案内

古代の人々は、いろいろな思いで文字を書き記しています。19号で紹介した印西市鳴神山遺跡から出土した墨書土器もその一つです。不思議なことに、千葉県は、墨書土器の出土例が最も多い県です。今回の記念事業では、墨書土器から房総の古代の歴史をさぐります。

■千葉県立大利根博物館

展示期間：平成11年12月4日(土)～平成12年1月9日(日)

月曜日休館。年末年始休館。

講演会：平成11年12月19日(日)午後2：00から。

演題「墨書土器と古代の北総」

講師／市原市埋蔵文化財調査センター所長栗田則久氏

定員80名、先着順。参加費無料。

交通：①JR成田線佐原駅から、水郷観光バス「水生植物園入口」下車約600m
(バスの運行数が少ないので要注意)

②東関東自動車道「潮来IC」から約5km

③東関東自動車道「佐原香取IC」から約10km

●問い合わせ：(財)千葉県文化財センター資料課 ☎043-422-8811(代表)

●平成11年度千葉県遺跡調査研究発表会

日時：平成12年1月23日(日)午前10：00から午後3：30

会場：千葉市文化センター／ホール(研究発表会)・同市民サロン(展示)
【中央区中央2-5-1・千葉中央ツインビル2号館内】

内容：千葉県内の各文化財センターなどにおける、近年の埋蔵文化財発掘調査の成果を公開します。遺物の展示も行います。

費用：無料。申込み：不要

●問い合わせ：当センター企画課 ☎043-422-8811(代表)

ちばまなびフェスティバル'99 “原始・古代フェア”

県内の文化・芸術団体の催しが、9月25・26日に幕張メッセ国際展示場で開催されました。

当センターをはじめとして、県内の文化財センターは共同で、来場者に楽しく原始・古代を学習してもらおうと、「勾玉作り」「縄文時代の衣服の試着」「縄文土器の文様をつける」などの体験コーナーを設け、注目を集めました。



勾玉の出来上がり

フォーラム『今、古代史がおもしろい』

当センター設立25周年記念事業

柏市にある「さわやかちば県民プラザ」で、10月17日に開催されました。国立歴史民俗博物館教授平川南氏をはじめとして、県内の古代史に詳しい研究者をパネリストに迎え、出土文字をテーマに討論が行われました。

当日は、約170名の参加があり、古代房総の出土文字の研究成果に熱心に耳を傾けていました。



基調講演をする平川南氏

●ビデオ・ライブラリーを 授業などに活用してみませんか！

当センター制作のビデオテープを学校団体などに貸し出しております。

問い合わせ・申込みは、当センター資料課まで。

内容は次のとおりです。

- ①『古代を未来につなぐ』〈文化財センターの仕事〉
- ②『房総の誕生と狩猟採集生活』〈旧石器時代から縄文時代〉
- ③『弥生人と古墳の世界』〈弥生時代から古墳時代〉
- ④『都とむらのくらし』〈奈良・平安時代〉 【各約20分】

なお、ビデオ・ライブラリーは、千葉県視聴覚センター(千葉市美浜区)・県立高等学校視聴覚ライブラリー・県立博物館・県内各法人文化財センターなどにも配布してあります。

■表紙について

イルカ下顎骨製装身具(千葉市有吉南貝塚出土)

縄文時代中期。詳しい用途は不明。

およその計測値／長さ22.6cm、幅8.5cm、厚さ3～4mm、重さ41g。(表紙写真は、ほぼ原寸大)

撮影：堀越知道